

高田
本山
だより

国宝

本山の御影堂・如来堂が国宝に指定されました。
境内も国宝をとりまくのにふさわしいよう、
順次整備しています。



三月になり、春の嵐が吹く中、桜が咲き始めました。
四月になるとソメイヨシノが国宝に彩りをそえます。

113

「国宝への道」

私がお案内いたします

昨年、十一月二十八日に高田本山の御影堂と如来堂が国宝に指定されました。

三重県内での新しい国宝指定は約半世紀ぶりです、特に今回は県内初の建造物としての国宝指定となったことから、各方面から非常に注目されております。

また現在、三重県内の国宝は六点ありますが、以前より高田本山に伝わります国宝『三帖和讃』『西方指南抄』二点とを合わせますと、県内六本の国宝うち四点がここの身田の高田本山にあるという事になります。このようなことから高田派のお同行だけでなく、旅行会社のツアーなどの申し込みも殺到し、今年のお七夜は例年の三割増しの参詣者数だったといわれております。

このように国宝指定にわく高田本山ですが、私はかつて参詣者の方がつぶやかれた一言が忘れられません。その方は御影堂と如来堂を前に深々と合掌されますと、こうつぶやかれました。

「これも親鸞聖人のお力ですなあ」

御影堂と如来堂の前には石畳の参道があります。

それぞれの縦の本数を数えてみますと、御影堂が十八条、如来堂が十七条となっています。これらは『無量寿経』に説かれております法蔵菩薩の建てられた四十八願のうちの、第十八願（念仏往生の願）と第十七願（諸仏称名の願）があらわされているといわれており、自覚するしないに関わらず、その願いのご縁によって私がお御堂に導かれてきたという、事実があらわされております。

今回の国宝指定然り、すでにそのような道が用意されていたという事に「他力」という言葉をしみじみと味わっています。

高田本山進納所 村上英俊



国宝指定記念の御朱印も進納所にて承っております





国宝で迎える新成人



通り参拝の賑わい



祝賀会でご挨拶する法主殿



楽しいお七夜子ども大会

●今年も報恩講（お七夜）が一月九日から十六日の八日間にわたり、無事にとまりました。国

こんな行事がありました



両御堂の瓦の拓本

国宝指定祝賀会が三月五日に催されました

●国宝指定を祝う会は、如来堂・御影堂での慶讃勤行につづき、高田会館ホールで行われました。三重県初の建造物の国宝指定ということもあり、三重県知事・鈴木英敬氏や津市長・前葉泰幸

菅原洋一先生による国宝指定記念講演をはじめ、逮夜後に中陣の通り参拝もおこなわれ、国宝の内陣を間近でご覧いただくことができました。

宝効果があるのでしょいか、連日多くの参詣があり、門前の露店もいつにも増してにぎわっていました。



一斉放水

●国宝になって初めての防火訓練が文化財防火デーの一月二十六日に行われました。



国宝指定記念講演

氏もお祝いに駆けつけていただきました。また、門室に秘蔵されていた山下清画伯の本山のスケッチも祝賀会場に展示され注目を集めました。





9/1 声明公演にむけて

国宝に響く声明を全国に

声明しょうみょうはお経などに旋律や音階をつけ、仏祖を讃嘆しお勤めするもので、その歴史は古く、日本音楽の源流になると言われています。

高田派に伝わる『報恩講式』は、御開山聖人のご遺徳を讃嘆する声明で、「お式文」を中心に、天台声明の流れを汲んだ「伽陀」や「引声念佛」など、さまざまなお勤めで構成されています。それぞれに趣きがありながらも厳かな響きをもつ旋律があり、毎年のお七夜報恩講では多くの僧侶達によって、その声明が堂内に響きわたります。

内陣の金色の荘厳とともに、声明が浄土を表す荘厳となり、私たちに報恩謝徳の心呼びさします。

現在、高田本山では九月一日の国立劇場にむけて、県内外の高田派の僧侶が集まり、声明の研鑽を積んでおります。

本山維那 清水谷 亮雅

リレー法話 いのち

鈴鹿市称名寺住職 北畠大道

いのちというお題を頂いて思いますのは、「此この身今生みこんじょう」というところでございます。

後生ごしょうの一大事と言う言葉がありますが、それと同時に一大事なのが今生でありましょう。勤行聖典の最初のページに載っております礼讃文らいさんもんには「この身今生において度どせずんば、更さらに何いずれの生しじょうにおいてか、この身を度せん（人生においてこの身を今救う事が出来なければ、一体いつ救われるというのか）」と書かれています。

この礼讃文が最初のページに載っている意義を考えますと、「この勤行聖典を拝読するにあたって、この心を基本としなさい」という、大事な文言なのだということが見えてきます。この心が真宗門徒において重要なことで、この基本の心を一貫し

ていなければ、何事も成すことが出来ないのです。

今生を辞書で調べますと、「この世・生きている間」というようになります。しかし真宗でいう今生とは、生まれてから死ぬまでではなく、まさしく今、この瞬間のみをさします。それがなぜかという、私たちの日常は、十年後は生きていくかわからないが、今日明日はまあ生きていくだろう、と信じ切って日々を過ごしています。その日々の繰り返しの中のうとうと過ごしていると、なかなか自らを省みる機会もなく、いつか死ぬまでにと思っていたら、気づいた時にはろくに仏法も聞かぬまま墓の中に入りかねないのが私たちというものでしょう。そんな生活の中で繰り返される苦悩といえ、利害損得に終始して、あれが嫌

親鸞聖人ご旧跡を訪ねて

第七回 源空上人との出会い

親鸞聖人が師・法然(源空上人)に出会ったとされる場所が、安養寺です。あるとき、京都四条橋のもとで聖覚法印に出会い吉水においでになる法然のもとに行くことを勧められます。

この出会いが大きな転機となり親鸞聖人の中で他力のお念仏の世界がひろがりはじめます。

比叡のお山を降りることになった親鸞聖人は岡

崎の草庵から吉水に通われたといわれています。

こちらは現在真宗大谷派の岡崎別院となっていて、法難のおりにご自身のお姿をうつしたといわれる鏡池や聖人お手植えの伝承をつたえる八房の梅があります。

安養寺は京都円山公園東奥にあり、祇園バス停より徒歩八分。岡崎別院は岡崎神社前バス停すぐのところにあります。

(山川蓮生)



吉水の草庵・安養寺



岡崎の草庵にある鏡池

だこれが嫌だと愚痴ばかりこぼす始末です。その苦悩というものは、今解決せずに先送りにする問題ではありません。だからこそ、今、この瞬間という部分が非常に大切になってくるのです。

私がこの言葉を再確認させて頂いたきっかけに、去年、高田派本山専修寺の両御堂が国宝に指定されたことがございます。高田派の一僧侶としてこれほど嬉しい事はありません。

私は恭敬部くきょうぶに身を置かせて頂いてももう少しで七年になりますが、初めてお勤めをさせていただいた感動は今でもありありと思いたすことが出来ます。間近で見た大伽藍の迫力と荘厳の美しさに、思わず息をのみました。当時はただその大伽藍と荘

厳に感動をしたのですが、今回の国宝指定により実感したことは、私たちが拜ませて頂くこのお御堂は、過去から受け継がれた信仰の姿なのだ、ということとです。此の身今生、「世の中安穩あんゑんなれ仏法ひろまれ」と一心

に念仏を申してきた人たちがこの伽藍を支えてきたのです。そのことを想えば、国宝として歴史的価値、建造物としての価値に注目が集まる中で、今一度私たち真宗門徒が確認しなくてはいけないのは、この立派なお御堂と共に受け継がれてきた教えなのだと思感せずにはいられませんでした。

そこに立ち返った時に問われてくるのが、冒頭に述べました「此の身今生」というところに「いざいませ。親鸞聖人の仰るおっしゃ、今この瞬間というのは、救われぬものも必ず救うという阿弥陀如来の御心を深く感じ知つてのお言葉でしょう。

今生は今生の力ではどうにもならない。しかしその今生をどうするか、どうにもならない今生の中で、どうやって私たちが安んじていくのか、という所に見い出されてくるのが往生浄土の教えであり、このいのちを生きるという事なのではないでしょうか。なもあみだぶつ

「四諦八正道」

釈尊シリーズ⑩



釈尊のいちばん最初の説法のことを初転法輪とよびます。そのときに説かれた内容は、佛教の最高の目的である涅槃を

目指す四諦八正道という教えであったといわれています。四諦とは四つの真理という意味で、苦諦、

集諦、滅諦、道諦の四つの真理のことです。

苦諦・・・人生は苦であるという真理。

集諦・・・苦しみを招き集める原因は煩惱であるという真理。

滅諦・・・煩惱の火が吹き消されて苦しみを滅した境地が涅槃であるという真理。

道諦・・・苦を滅して涅槃のさとりに至る方法が八つの正しい道(八正道)であるという真理。

八正道とは、
 正見(正しい見解)、
 正思惟(正しい思索)、
 正語(正しい言語)、
 正業(正しい行為)、
 正命(正しい生活)、
 正精進(正しい努力)、
 正念(正しい思いの持続)、
 正定(正しい精神統一)

汗を流して清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございます。ます。(敬称略・奉仕日順)

十二月

智慧光院・玉保院

一月 二月 極寒の時期のためお休みです。

本山のご奉仕で汗を流しませんか。ひとりひとりの力が合わさり山内が護持されています。お檀家さま・お同行さまただけはなく一般の団体の方にもご来山いただいております。お申し込み、お問い合わせは宗務院庶務部までお願いします。



WEB VERSION

WEB VERSION

です。

ここでは、八正道の中でも最も根本的な正見について、阿弥陀様に救われる他力念仏の教えとともにみていきます。

正見とは、正しいものの見方、考え方という意味ですが、私たちはこの正見を自分の力で身につけることはできません。煩惱の塊の私たちはいつも自分の都合のいいようにしかものごとを見ることができないからです。

煩惱とは、心身を乱し、わずらわせ、正しい判断をさまたげる心のはたらきです。自分中心の見方、考え方ができず、智慧がないのが煩惱

まみれの私たちです。

ですから、苦しみを減らすことができません。煩惱に翻弄されながら、自分の都合で苦楽を一喜一憂し、しかもそんな日ごろの自分の相を自覚できいていません。にもかかわらず、自分の見方、考え方が正しいと思いいこんでいるのが私たちです。

しかし、今まで思いこんでいた自分の見方、考え方が実は全くあてにならないかったと気づくことがあるとするならば、それは阿弥陀様の光に自分が照らされて気づかされたのです。それは同時に、阿弥陀様から御信心をたまわったということ

でもあり、まちがった見方、考え方が破られたということでもあります。阿弥陀様は「煩惱を棄てる」とは言われません。「煩惱そのままに救う」と言われます。阿弥陀様に照らされますと自分の煩惱を思い知らされます。煩惱はなくなりませんが、自分の本当の相に気づかされます。

それはまさしく正見です。私たちは、自分の力では正見は身につけませんが、阿弥陀様に照らされて自分の煩惱に気づかされて正見をたまわります。そして真に自分を生きていく人間となるのです。(教学院第三部会)



特別拝観限定「蓮」全席料理 夢告
二〇一八年開催日程
五月二十七日・六月十四日・六月三十日
十月一日・十月十八日・十月二十八日・十一月十日

詳しくは
宗務院
広報課まで

WEB VERSION



WEB VERSION

WEB VERSION

たくさんの方の参加を
お待ちしております

写生大会

しゃせいたいかい

平成30年3月24日(土)~4月8日(日)

写生大会は上記の期間中にいずれの日に来ていただいても受付いたします。



国宝 高田本山で絵を描きませんか？

時 間：毎日9時から15時
 受 付：宗務院にて受付
 受付で画用紙を受け取って下さい
 場 所：高田本山境内
 対 象：幼児から中学生まで
 (高校生以上は審査対象外で受付します)
 持ち物：絵の具・クレヨンなどの画材

ただひんさんのはなまつり。
 みんなでおしゃかさまの誕生日を
 お祝いしましょう。

時 間：午前10時から12時まで
 受 付：午前9時15分より
 場 所：高田本山宗務院
 対 象：幼児から中学生まで

お願い おしゃかさまにささげる
 お花を一輪お持ち下さい。

平成30年4月22日(日)

はなまつり

※お問い合わせは宗務院までお気軽にどうぞ

●行事案内

- 三月十五日～二十一日
- 大涅槃図公開(如来堂)
- 三月十八日～二十四日
- 讚佛会
- 三月二十四日～四月八日
- 写生大会
- 三月二十六日～二十八日
- 中学生教化合宿
- 四月六日～十一日
- 千部法会
- 四月八日
- 釈迦三尊仏法会(山門)
- 四月九日・十日
- 十万人講法会
- 四月十一日
- 戦没者追弔法会
- 四月二十一日
- はなまつり
- 四月二十九日
- 興学布教大会
- 五月六日～八日
- 堯祺上人御正當
- 五月二十一日
- 親鸞聖人降誕会

寺院名

高田本山



Senjuji

三重県津市一身田町
2819
真宗高田派本山専修寺



今年も四月八日は山門上の釈迦三尊の法要があり、参詣の方は楼上におのぼりいただけます。

WEB VERSION